

**情報通信審議会 情報通信技術分科会
放送システム委員会（第42回） 議事概要（案）**

1 日 時

平成26年3月14日（金） 15時00分～16時00分

2 場 所

総務省11階 第3特別会議室

3 議 題

- （1）前回議事概要の確認について
- （2）放送システム委員会報告（案）に対する意見募集の結果について
- （3）放送システム委員会報告及び答申（案）について
- （4）その他

4 出席者（順不同、敬称略）

【構成員】伊東主査（東京理科大学）、都竹主査代理（名城大学）、伊丹（東京理科大学）、甲藤（早稲田大学）、野田（日本ケーブルラボ）、松井（電波産業会）、矢野（（独）情報通信研究機構）、山田（関西学院大学）

【説明員】黒田（超高精細度テレビジョン放送システム作業班構成員）

【事務局】野崎、山野、金子、波間（情報流通行政局放送技術課）

5 配付資料

- 資料42-1 放送システム委員会（第41回）議事概要（案）
 - 資料42-2 放送システム委員会報告（案）に対する意見及びその考え方（案）
 - 資料42-3 放送システム委員会報告（案）の主な変更点について
 - 資料42-4 放送システム委員会報告（案）
 - 資料42-5 答申（案）（超高精細度テレビジョン放送システムに関する技術的条件のうち衛星基幹放送及び衛星一般放送に関する技術的条件）
- 参考資料1 放送システム委員会報告概要（案）

6 議事概要

議事次第に沿って調査検討を行った。議事概要は以下のとおり。

（1）前回議事録の確認について

資料42-1の議事概要（案）について、承認された。

（2）放送システム委員会報告（案）に対する意見募集の結果について

事務局より、資料42-2に基づき、放送システム委員会報告（案）に対する意見及びその考え方（案）について説明がなされ、主に以下の質疑が行われた。

○音声符号化方式に関する意見が多数見受けられ、それに対する考え方として、「周波数有効利用等の観点から今後検討すべき課題がある」としているが、具体的にどのような課題がある

のか。(山田専門委員)

○入力サンプリング周波数や入力量子化ビット数を上げることや、リニア PCM のように非圧縮の音声情報をそのまま送ること等で、音質を良くしたり簡易な受信機を実現しようとすれば、放送の帯域中に占める音声の情報量が増加する。限られた周波数帯域で放送を行うため、これまでも音声情報を適切に圧縮する等、周波数を効率的に使用するよう工夫しているが、提出された意見に対応するにはさらに周波数有効利用の観点から検討が必要になるのではないかと、との観点から、課題として記載している。(事務局)

○与えられた一定の伝送レートを無駄なく効率的に使う必要がある、との意味。仮に音声に多大なレートを割り当てると、映像に割り当てるとレートの少なくなる。(伊東主査)

○入力量子化ビット数に関しては、今後 16 ビット以上のものにも対応していくという理解でよい。(山田専門委員)

○放送事業者の判断で、必要に応じて 16 ビット以上も使用されていく見込み。(事務局)

○広帯域伝送について、音声符号化方式の音声入力フォーマットのところで入力サンプリング周波数が 48kHz で固定されているが、これを上げるという選択肢は排除されるものなのか。(都竹主査代理)

○現行使用されている入力サンプリング周波数を基本とし、実際に使用される値として、最も高い数値でもある 48kHz のみとしている。48kHz を超える入力サンプリング周波数を採用することについてニーズがあることは承知しているが、考え方(案)のとおり、今後の検討課題と認識している。(事務局)

○伝送路符号化方式に関する意見はなかったのか。(都竹主査代理)

○報告(案)全体に関する賛成意見は複数提出されているが、伝送路符号化方式に対する個別の意見等は提出されなかった。(事務局)

放送システム委員会報告(案)に対する意見募集の結果については、資料 42-2 のとおり取りまとめることとし、後日公表することについて、承認された。

(3) 放送システム委員会報告及び答申(案)について

事務局より、資料 42-3、42-4、42-5 に基づき、放送システム委員会報告(案)及び答申(案)について説明がなされ、それぞれ案のとおり承認された。

(4) その他

事務局より、今回承認された委員会報告及び答申(案)については、平成 26 年 3 月 25 日に開催予定の情報通信審議会情報通信技術分科会に報告することとし、同分科会において一部答申に向けて審議をいただく予定である旨、説明があった。

以上